

# 人権教育，同和教育全体計画

## 学校教育の重点目標

- 互いに尊重し合う子ども  
・思いやりと助け合い・自らを高める
- 意欲的に学ぶ子ども  
・「確かな学力」の向上・学び合う姿

## 人権教育，同和教育の目標

自分の大切さとともに他の人の大切さを認めることができる児童の育成

## 重点取り組み事項と評価基準

### <指導の重点>

学校生活のあらゆる機会と場を通して、「差別をしない，差別をさせない，差別を許さない」子供を育成する。

- いじめ根絶に向けた取組を学期に1回実施する。  
1学期:ハッピーハート集会（いじめ見逃しゼロスクール集会）※オープンスクール  
2学期:ハッピーハート集会，人権・同和教育の道徳授業（人権強調月間）→学年便りで啓発  
3学期:SSTを取り入れた授業
- 「生きるⅠⅡⅢ」を活用した道徳授業を展開する。  
\*年間2題材以上を，全学年で実践する。
- 「出小命の日」（6月7日）や「ハッピーハート集会」（6，11月）を実施し，振り返りを通して，児童一人ひとりの考えを深める。また，学年便り等で様子を伝え，保護者との連携を図る。

	学級経営	道徳	教科等	家庭との連携
指導の重点	よりよい人間関係作りの基礎を築く話し合う力の向上	いじめや差別を許さず，自分で考え，正しく判断して行動する子どもの育成	社会科を中核にした差別の歴史の理解に基づく人権意識の高揚	・授業公開や学校での取組を便り等で紹介したりして実態や問題意識を共有する。 ・児童の感想文等を通して，児童の学びを保護者に励ましてもらう。
具体策	・自分のよさを意識したり，伸ばしていこうとする意欲を高めさせたりする「心の苗木」の活動を設定する。 ・互いの特性を理解し合い，問題を話し合いで解決しようとする場（学級会・朝の会・帰りの会等）を設定する。	・「生きるⅠⅡⅢ」を活用した授業を実施する。 ・各種人権問題に関わる題材を取り上げ，人権感覚を磨く。 ・児童の心の問題に迫り，感性を磨く資料を工夫・活用する。	・6年社会科で差別の歴史を理解させる。 ・国語，生活，家庭，総合的な学習の時間等で，生き方を考える場を設定する。	
評価基準	○友達から自分のよさを認められていると考える児童が90%以上（Q-U調査） ○自分の気持ちを話したり，相手の話をよく聞いたりしていると考える児童が90%以上（Q-U調査）	○「いじめ」は理由によらず絶対してはいけない」と考える児童100%（児童アンケート） ○同和・人権に関する授業や集会で，個々の振り返りを行う。	○歴史の中での差別的な事象や差別に立ち向かった人々や文化発展へ貢献した歴史について理解した6年児童が80%以上（教師の評価）	

\*校内研修を，年間1回実施する。（隔年で，町教研での小中合同研修会を実施する。※29年度小学校）